

門へ13  
號 3753  
卷 9

琴聲美人錄

京山作

九編

上  
園て存畫

亮  
初畫

壽梓



替然飛過誰家燕  
簷地吹

一  
處花葉戶日長  
採茶

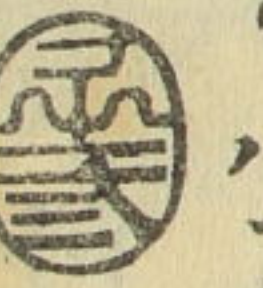
倦  
一  
瓶春水自  
奠茶

琴聲美人錄九編  
朱欲置叙言之時

近隣之落  
茶隨風傳書  
景依以轉

一句書此  
待以代序

八十三卷一歲



山東庵





加田井田  
主心登美

まつお  
星の家の老

石部金之丞

石部金大夫  
娘



星の家の井中  
千咲  
藏

本屋  
吉六の妻

吞九郎  
妙母

鎌倉大倉谷  
阿弥陀山極楽院开化大  
智真

星の井中  
大吞九郎



又またん... 九段... 美入鏡... 九段... 美入鏡... 九段...

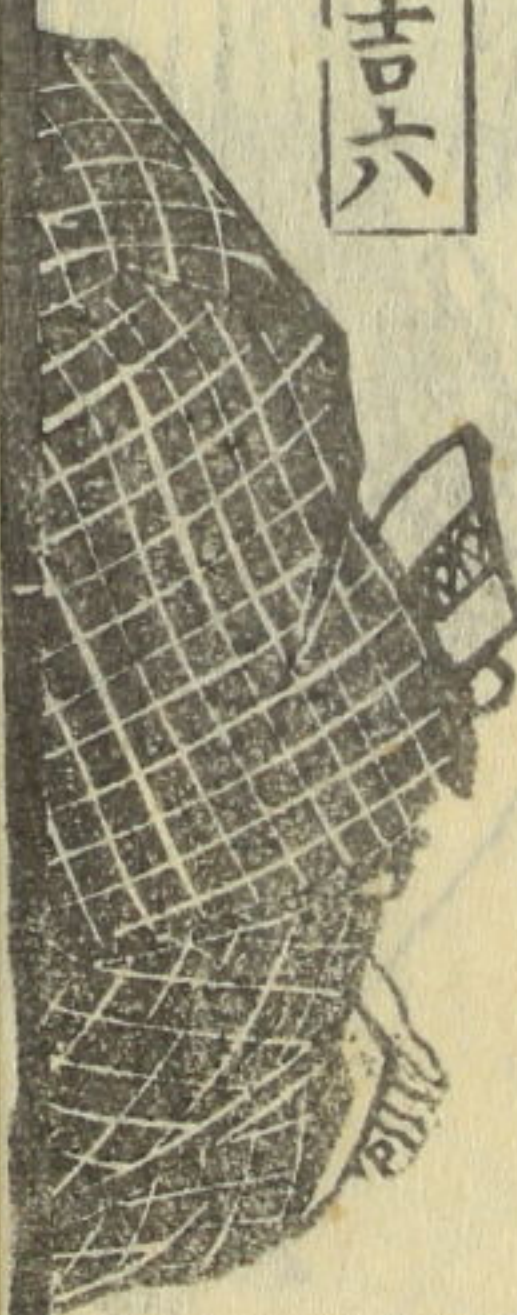
九編初段

九編初段... 美入鏡... 九段... 美入鏡... 九段...

女房おま



かぶや吉六



星の井の中 千崎治五藏



あまれ... 美入鏡... 九段... 美入鏡... 九段...



美入鏡... 九段... 美入鏡... 九段... 美入鏡... 九段...





三思一言五思一行  
 三思一言五思一行  
 としうこれいふとき  
 又いこれいふとき  
 三思一言五思一行  
 としうこれいふとき  
 又いこれいふとき



三思一言五思一行  
 としうこれいふとき  
 又いこれいふとき

三段

三思一言五思一行  
 としうこれいふとき  
 又いこれいふとき



下女

三思一言五思一行  
 としうこれいふとき  
 又いこれいふとき

三思一言五思一行  
 としうこれいふとき  
 又いこれいふとき



しんわらわが  
 へんやうして  
 ながさるのまされ  
 ぐさくがふあつる  
 りあつはわがうて  
 まのうらりせよと  
 めつひこれとといふ  
 だんごのやめあつて  
 くらういひまうし  
 へんごうてこのいひ  
 ちかかしくゆへあつて  
 とうげんをなつとあ  
 やかては本さのいふと  
 ちかかうあつていふ  
 けんとちかういひ  
 ちかかういひとせむ  
 やくそくとく大らひ  
 ちかかういひのあつて  
 うてをわらうて  
 ちかかういひのあつて  
 ままのいひのあつて  
 りあつていひのあつて

①いひひん  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ



下女おん  
 ちかかういひのあつて  
 ままのいひのあつて  
 りあつていひのあつて  
 ちかかういひのあつて  
 ままのいひのあつて  
 りあつていひのあつて  
 ちかかういひのあつて  
 ままのいひのあつて  
 りあつていひのあつて

長八郎いひ

ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ

②いひひん  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ



③いひひん  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ  
 ままのいひひん  
 りあつてのいひ  
 ちかかういひ



あつたはらば  
 下女のさしこい干支の  
 ちやく合であつたの  
 ちやくあつたさきさき  
 さきさきさきさきさき  
 のさきさきさきさき  
 あつたさきさきさき  
 さきさきさきさき  
 さきさきさきさき

金まつま  
 ちやくね

金之丞

あつたはらば  
 下女のさしこい干支の  
 ちやく合であつたの  
 ちやくあつたさきさき  
 さきさきさきさきさき  
 のさきさきさきさき  
 あつたさきさきさき  
 さきさきさきさき  
 さきさきさきさき



あつたはらば  
 下女のさしこい干支の  
 ちやく合であつたの  
 ちやくあつたさきさき  
 さきさきさきさきさき  
 のさきさきさきさき  
 あつたさきさきさき  
 さきさきさきさき  
 さきさきさきさき

金まつま  
 ちやくね

あつたはらば  
 下女のさしこい干支の  
 ちやく合であつたの  
 ちやくあつたさきさき  
 さきさきさきさきさき  
 のさきさきさきさき  
 あつたさきさきさき  
 さきさきさきさき  
 さきさきさきさき



京山老人作

つまあうりしきさき  
千はまきほりきさき  
えいあれはも  
あひもあ  
つれあひは  
よのあきまき  
こまきしきあ  
どのあれはの  
おそかたしき  
せまきさき  
いりまきさ  
お金さ  
お金の  
あいさ  
そのあ  
たのあ  
せまき  
ハ



國輝画

新編...

① 五三のあまはかりふかきや  
吉六ふかきさきあひかき  
かろかりらひのかきさき  
さきけら金のあきさき  
さきさきさきさきあひ  
たるとさきさきあひ  
さきさきさきさきあひ  
さきさきさきさきあひ  
さきさきさきさきあひ  
さきさきさきさきあひ  
さきさきさきさきあひ

松源實むらり

自九編至十四編 笠亭仙果作  
當辰正月 菱兒 歌川國貞画

安政四年丁巳 春新刊目錄

九編惟規少將再度中將 奸計小指と曳手妓小其宛と救ふ齋院御  
櫻の行啓小天変有正名疑りち擒らる中將鳴高罪ふ伏す惟規住吉  
御使ふ立三島江口小遊女香か値遇 宝の笛と失ひ簞居の事 下編同人  
密北越山奔 紫式部めらあひひんもの歌に由來 宜孝丹生  
依の時飛村の根藉遊六田の茅屋旧熟の婦と二子ふ再會帰各の後ま  
宇佐赴 十編六田の梭手見妹姑ふより野洲子病身まの鳴見姉の仇と復  
さきさき紫式部一女子と産む後大貳三位賢子是より此卷法皇あつたの語と  
かき書む 十二編惟規北国流浪あられること多 紫式部寡婦ふより東  
門院ふ宮仕の頼末 十三編式部ふ女の忠貞こ中やふ記 御堂殿小野宮殿  
の紫花と賢方をせし出と花あり實ほり御高評を希し  
花兄弟陸奥多石野 同作國芳画 芝神明前 喜鶴堂敬白





「かみしほり」  
 けつりんかまをあらう  
 むしとくをあらう  
 んていじをあらう  
 のちひらきあそ  
 ぶちあそびあそ  
 ぶるまごころを  
 まごころをあらう  
 あのあつたをあらう  
 今言あがゝかみ  
 めでさくまごころ  
 こころをあらう  
 めいぶん  
 かねのひらきあそ  
 のこころをあらう  
 むしとくをあらう  
 んていじをあらう  
 のちひらきあそ  
 ぶちあそびあそ  
 ぶるまごころを  
 まごころをあらう  
 あのあつたをあらう  
 今言あがゝかみ  
 めでさくまごころ  
 こころをあらう  
 めいぶん

金の煙

福井の  
 金の煙



七段  
 ちのせうもいへんかざりあつた  
 のちひらきあそ  
 ぶちあそびあそ  
 ぶるまごころを  
 まごころをあらう  
 あのあつたをあらう  
 今言あがゝかみ  
 めでさくまごころ  
 こころをあらう  
 めいぶん

①ねがひか  
 たてていへんか  
 ちのせうもいへんか  
 のちひらきあそ  
 ぶちあそびあそ  
 ぶるまごころを  
 まごころをあらう  
 あのあつたをあらう  
 今言あがゝかみ  
 めでさくまごころ  
 こころをあらう  
 めいぶん



美人  
 縁九編



加賀井本太夫  
 中の人あり  
 加賀井本太夫  
 中の人あり

加賀井本太夫  
 中の人あり  
 加賀井本太夫  
 中の人あり

加賀井本太夫  
 中の人あり  
 加賀井本太夫  
 中の人あり

加賀井本太夫  
 中の人あり  
 加賀井本太夫  
 中の人あり



加賀井本太夫  
 中の人あり  
 加賀井本太夫  
 中の人あり





金の巻

おうれ



八段

かゝる金の巻やうかひにうらまひ  
おのゝとらふにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ



おうれ

おうれ

あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ

あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ

あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ

あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ



大口の九郎

あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ



あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ  
あつたにうらまひにうらまひ

四

つぎけしは門からあわやうをひ  
おあるさうとがまのらくあひの  
わくあわゆるんや。七夜「されを  
さあのかうあわゆるんさあまあを  
あいつのやうあまがうあう」

八夜「だんあま」  
「あひん」と  
あわやうを  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ

のこ丸郎



あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ

あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ

美人録九終

まぢぐひあひ  
まぢぐひあひ  
まぢぐひあひ  
まぢぐひあひ  
まぢぐひあひ

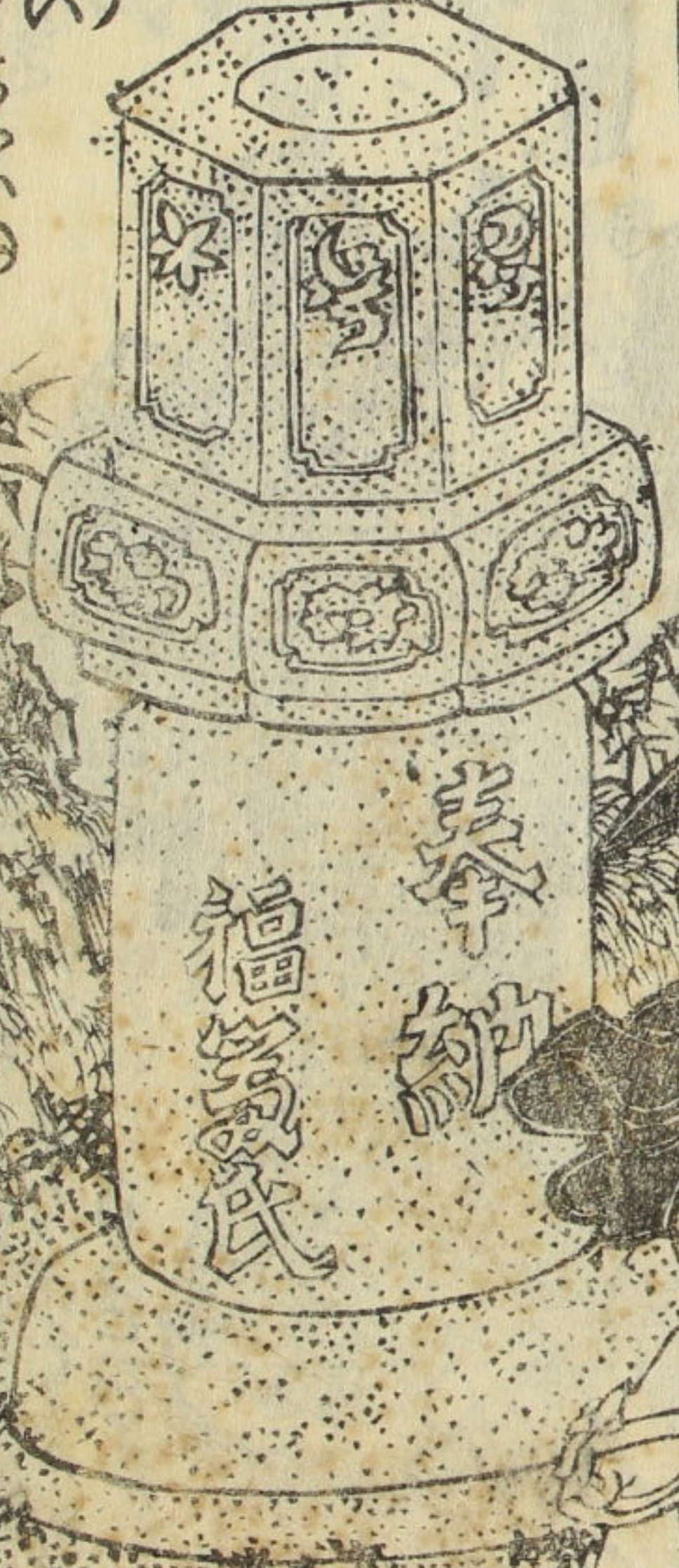
其二

か田井あき  
よりんあひの  
けしあひの  
口上あひと  
あひんのかうさ

知真坊



あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ  
あひんのかうさ



あひんのかうさ

美人録九終









ついでに... (vertical text block at the top left)

③ 江戸の... (vertical text block in the middle right)



④ 又ハ... (vertical text block at the bottom left)